

## 岐阜農林事務所の普及活動状況 令和8年2月28日現在

### 今月の重点活動

#### ■普及活動発表 令和7年度「明日の農業を考えるセミナー」を開催

農林事務所は、岐阜地域農業改良普及事業推進協議会と共催で、2月4日に「明日の農業を考えるセミナー」を開催した。管内の農業者や関係者ら約60人が参加した。

農業普及課から普及活動とその成果として「山県市の有機農業の推進に向けた取組み」及び「都市近郊農業における露地野菜の可能性」の2事例を報告した。また、JAぎふからは「持続可能な水田農業生産の取組み」について報告があり、農業者や関係者とともに取り組んできた活動の成果を共有することができた。

続いて、「くらぶち草の会」の和田裕之会長から「有機栽培をあたり前の農業に～仲間づくりと販売戦略～」をテーマに講演いただいた。有機農産物の出荷グループの結成、販売先との提携、新規就農者の募集活動等、地域活性化につながる多様な取組について示唆に富む話を伺うことができた。

農林事務所では今後も、地域農業の維持・発展及び農業者の経営安定に向け、継続して普及活動を行っていく。



【講演に耳を傾ける参加者】

(地域支援第二係)

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■岐阜農林高校 「農業の現場を学ぶ出前講座」を開催

農林事務所は2月18日に岐阜農林高校の流通科学科2年生計40名を対象に、「農業の現場を学ぶ出前講座」を開催した。この講座は、地域で活躍する若手農業者を講師として派遣し、農業の現状や経営の考え方を伝えることで、生徒の農業への関心を深め、就農を含めた進路選択の参考にしてもらうことを目的に、農林事務所と高校が連携して実施しており、今年度3回目の開催となる。

当日は、岐阜地域青年農業士連絡協議会会長である(有)三輪北農産の山口貴範氏が、家業を引継ぐ際の準備や苦勞、地域貢献の取組について講演した。また、同協議会OBで、せっきーファームの関谷秀樹氏が、瑞穂市で新規就農した経緯や、柿の販売戦略等について講演した。

講演後には、生徒から、従業員の給与や福利厚生の内容、就農に際し農地確保で苦勞した点等、現実的な質問が出され、有意義な意見交換となった。

農林事務所は出前講座の開催にあたり、講演者及び講演テーマの選定、岐阜農林高校及び岐阜地域青年農業士連絡協議会との調整を行った。

農業高校の卒業生は、これからの地域農業を支える重要な人材である。農林事務所は、次年度以降も高校と連携し、地域を担う人材育成の推進を図っていく。



【講師を務める青年農業士】

(地域支援第二係)

## ■新規就農 「岐阜地域就農支援協議会部課長会議」を開催

岐阜地域就農支援協議会は2月26日に各市町の就農支援担当部課長を招集し、会議を開催した。同協議会は、岐阜地域における新規就農者等の育成・確保を目的に設立されたものであり、会長はJAぎふ営農部長、事務局はJAぎふ営農企画課が務めている。

会議では、事務局から就農支援協議会の取組及び令和7年度就農支援活動状況、農作業体験の取組について報告が行われた。農林事務所からは、令和7年度における新規就農者サポートチームによる伴走支援状況について情報共有を行った。

農林事務所は今後も引き続き、就農相談から就農研修、営農定着まで一貫した就農支援が行われるよう、同協議会活動の活性化を図るとともに、各市町における就農相談や就農計画作成支援、新規就農者のサポートを実施していく。



【就農支援について  
情報交換する部課長ら】

(地域支援第三係)

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■だいこん 岐阜市園芸振興会だいこん部会 春だいこんの出荷始まる！

岐阜市の特産である春だいこんの出荷が2月から始まり、3月から4月にかけて出荷のピークを迎える。春だいこんは、岐阜市の則武、鷺山、島、合渡地区の12戸の生産者が、合計約6ha栽培している。

2月19日には、出荷に先立ち則武・鷺山地区の生産者を対象に出荷目揃会が開催され、サンプルを前にJAや市場担当者らと出荷規格について確認が行われた。市場担当者からは、「年々出荷量が少なくなっているが、販売につなげるためには、出荷量や出荷規格など、産地情報を的確に市場へ伝えて欲しい」との意見が示された。

農林事務所からは、春だいこんの栽培管理における注意点や、今後気温が高くなる時期に向けた適期収穫の重要性について説明を行った。引き続き、品質の良い春だいこんが安定的に出荷されるように、栽培管理等について情報提供を行っていく。



【順調に生育中の  
春だいこん】

(園芸産地支援第一係)

### ■かき 新品種「麗玉」の導入に向けて意見交換

(マル富共販協議会技術普及部会(岐阜市・瑞穂市・北方町))

近年、夏秋季の高温・干ばつにより、かきの着色遅れが顕著となっている。特に岐阜県の主力品種である「富有」は出荷期が12月上旬に集中することから、収穫・選別に多大な労力を要している。このような状況を受け、マル富共販協議会技術普及部会では、夏の高温の影響を受けにくく着色が良い中生品種「麗玉」に着目し、導入に向けた試作に取り組むこととなった。

2月3日には、先行して「麗玉」を生産している瑞穂市の生産者の柿園において研修会を実施した。農林事務所からは、「麗玉」の栽培管理に関する注意点等について説明するとともに、11月に実施した「麗玉」の品質調査結果について情報提供を行った。研修会では、出席者同士による意見交換も活発に行われ、「岐阜地域のかきの産地を守るためにできることに取り組んでいこう」という意気込みが感じられた。

農林事務所では、今後も「麗玉」をはじめとするかきの各種調査・実証を継続し、産地への的確な情報提供を行っていく。



【品質調査の様子(11月)】

(園芸産地支援第二係)